

第21回近畿手をつなぐ育成会連絡協議会 リーダー養成研修会が開催されました

難波支援学校支部 長谷川 美智代

第21回近畿手をつなぐ育成会連絡協議会・リーダー養成研修会が、1月30日に神戸にて開催されました。

今回は、「共生社会の実現を目指して～知的障がい擬似体験～」をテーマに、今、全国の育成会で注目されているキャラバン隊活動を5つの団体に実践していただきました。

最初は、たつの市手をつなぐ育成会「ピース&ピース」による、学習障がいのある子の擬似体験で、スクリーンに写し出された2重3重にぶれて見える文字や鏡文字を1分間で書き写すというものでした。そもそも文字が正確に捉えることができないのに、時間内に書き写すのは至難の業で、見えづらさを抱える困難さを感じることができました。「ピース&ピース」は、市内だけでなく兵庫県内の市町、そして国内各地を活動的に回ると共に、啓発隊を結成するための講座も行っておられるそうです。

2番目は、参加5団体の中で唯一兵庫県外からの参加で、大阪市手をつなぐ育成会も参画している「ぽっかぽか」による、自閉症児の“ゆう君”を主人公にした紙芝居「ゆう君とチューリップ」と言葉の理解が難しい人の体験「ケロケロ王国」の公演がありました。



この紙芝居は、大阪市育成会の会員交流会でも演じていただきましたが、ゆう君の行動に戸惑っていた友達が、ゆう君の気持ちを理解し仲良くなっていく姿が心優しく描かれています。読み聞かせの後には、場面を振り返りながら、ゆう君が暴れて泣いたり、友達を噛んだりした理由やゆう君のような子に、どんなふうに伝えたらわかりやすいのかを具体的に説明されていました。次のケロケロ王国体験は、日本語禁止で「ケロケロ」の言葉だけでやりとりをするもので、体験者は、演者のお二人が「ケロケロケロケロ」と話しかける中

どうしていいかわからない様子。終了後に感想を聞かれ、「何が起きているのかわからない。すごく困った。」と言っておられました。私の息子も自閉症ですが、同じ思いをしていたのかなぁ・・・と、なんだか切ない思いがしました。

3番目は、尼崎市手をつなぐ育成会「まんまるはーと」による、聞こえ方や見え方に不自由さを感じる人の擬似体験でした。「聞いてみよう」では、マスクをつけた5人が前に立ち、口々に5種の短い文章を何度も繰り返すのを聞いて、その中で一人だけ指示を出している人を見つけるというのですが、5人同時に話されると単語としてわかる言葉はあるものの、なんて言っているのかは全くわかりません。次にマスクをとって、真ん中の人が指示を出していることを教えてもらおうと、口元も見え、その人に注目できるので聞き取ることができました。「見てみよう」では、人によって見え方が違うので、印をつける、線を引く等の少しの工夫でわかりやすくなるということを体験しました。スクリーンに写し出された模様のようなものが、手がかりがない時は何かわからなかったのですが、上下に線を引くことで誰でも「L I F E」と読むことができました。

4番目の宝塚市手をつなぐ育成会「宝塚すみれ隊」のプレゼンでは、軍手を両手にはめて鶴を折り、細かな作業が苦手で、頑張っているのにできない人の気持ちを体験しました。

最後の西宮市手をつなぐ育成会「輪・和・WA」は、参加者を3つのグループに分け、指示の書き方の違う指示書(A・B・C)を配布し、指示に従った行動をとってもらおうというものでした。A～Cは、すべて同じ指示が書かれていますが、Aは、指示が順番通り書かれ、Bは、順番がばらばらだが番号をたどれば指示がわかり、Cは、番号をたどっても指示がわからないように作成されていました。当然、Aを配布された人は、すぐ行動に移すことができ、時間が経ってBの人ができるようになり、Cの指示書の人は、意味がつかないでチンプンカンプン。このワークでは、複雑な内容は、混乱する。複数の指示がある時は、文を短くする、内容を明確にする、順序良く示すことが必要で、成功体験を得られるように、わかりやすい指示を出し、ほめる機会が増えるような導き方を工夫することの大切さを学びました。

5団体ともよく考えられた内容で、感心しながらも楽しい時間を過ごすことができました。知的、発達障がいの支援ツールは、目で見てわかるもの、理解して